

	発行者の略号	東書	学図
	書名	新しい国語	学校図書
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①「言葉の力」を身につけるため、「何ができるようになるか」を明確にし、言葉による見方考え方を働かせて学びを深めるための工夫がある。	①個人・他社との関わり・社会との関わりなど、多様性を前提とした問題解決能力の育成を編集の理念としている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①情報を整理したり、関連づけたりする思考操作をメモやノート、思考ツールで可視化し、目的や課題に応じて情報を扱う力が身につくようになっている。 ②各単元は「つかむ」「取り組む」「ふり返る」のステップに沿い、育成すべき「言葉の力」を明確にしたシンプルな構造で組織されている。 ③学年末には年間の学習を振り返る場面を設け、児童が自らの成長を実感し、さらなる学習の意欲を高められるようにしている。	①言葉の働きや使い方を系統的に配置するとともに身の回りことばのつながりを意識して教材化することで、言語生活を豊かにしていけるよう配慮している。 ②育成する能力を総合的にとらえ、対話の中で伝え合う力が身に付けられるようにするとともに系統的・重点的に学習を組み立てることで、思考力や想像力が養われるよう工夫している。 ③論理的な側面・感性や情緒の側面・人とのコミュニケーションの側面などから言語感覚を養い、国語の大切さを自覚できるように配慮している。 …(ア)の(ウ)⑨も参照
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町 ・自ら考え表現する力・命を大切に作る心・健やかな心と体・ふるさとへの愛・夢への挑戦	①文学作品が多数掲載されており、様々な人の生き方や他者への思いやり、生命の尊厳などに触れ、感性に訴える作品を味わうことで心を豊かに育むことができる。	①自然災害や自然環境に関わる教材・共生や共助の精神を育む教材・我が国の伝統文化の価値を再認識するきっかけとなる教材・夢をもち努力することの大切さに気づかせる教材など、今日的教育課題へ対応した多彩な教材を掲載している。
	(7) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①1年生の初めの単元では、鮮やかな色彩のイラストが使われており、引きつけられる。音を楽しみながら言葉に親しみ友達と関わる内容になっている。 ②低学年では、生活科や図画工作と合わせて学習しやすい題材を扱っている。 ③(イ)②に記述 ④学年に応じて季節の言葉を扱い、日本語の美しさや表現の豊かさに触れることができる。 ⑥幼稚園からの接続、中学校の教育課程を踏まえた系統性など、概ね配慮されている。 ⑦4年では広告、5年では新聞、6年ではインターネットを読み比べる単元があり、各学年において情報活用能力や情報の送り手、受け手の技能を育成できるような教材が配置されている。また比較対象となる資料を複数ページにわたって掲載したり、見開きで比較できるよう配置したりといった工夫が見られる。Dマークのある教材は、インターネットコンテンツが利用できるようになっている。 ⑧つまずきやすいポイントで、視覚支援や動作化を取り入れた学習ができる工夫がある。特に1年生の促音の学習では手のたたき方で音節を意識する(多層指導モデル MIM)方法を取り入れており分かりやすい。助詞「は」「を」「へ」の学習では助詞を入れる過程をスモールステップで示すと共に、視覚的に表現していることで捉えやすくなっている。	①共有した問いを巡って思考を活性化しながら、友達との話し合いができるような言語活動が設定されている。 ②2年生では、外国語でのあいさつをテーマにした「あいさつのみぶりとことば」、4年生では、社会科見学を新聞にまとめる活動など、国語科を中心とした教科横断的な視点を意識した言語活動が設定してある。…(イ)の①も参照。 ③…(イ)②に記述する。 ④低学年では昔話、中学年では短歌や俳句、高学年では古文や漢文など、伝統的な言語文化教材を扱っている。また、「季節のたより」を新設し、季節を感じる心の育成を目指している。 ⑤学習のねらいに即した言語活動を各単元にバランスよく設定し、言語活動を通して、学びが積みあがるように配慮されている。…⑦文字では伝わりにくい狂言の動画などが扱われている。 ⑥入門期には、幼児教育との円滑な接続を意識した教材が配列されており、安心して学びに向かえるような工夫がされ、高学年においては中学校へのつまずきに配慮された学びができるよう配慮されている。また、6年生では、中学校に先行して漢詩が取り扱われている。 ⑦情報の関連性を見出し、言葉の見方や考え方を広げるため、図化や表化・KJ法・マッピングなどにより、情報を視覚化し、思考を整理する力を育成する工夫がされている。また、QRコード対応のインターネットコンテンツを利用できるようになっている。(QRコードは、教科書のページと直接対応。) ⑧…(ア)の(エ)③を参照 ⑨「〇年生でつきたい力」「〇年生を振り返って」など、『めあてを確認し、見通しを持つ⇒学習に取り組む⇒学習を振り返る』という学習過程や単元全体を構造化されており、児童の意欲や理解を高める工夫や配慮がなされている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②高学年は1冊にすることによって1年間の学習を見直し振り返ることのできる作りになっている。 ③読みやすさや書きやすさを意識した手書き文字に近い書体を使っている。ローマ字については英語教科書用に開発されたユニバーサルデザイン書体を使用している。	①概ね適切である。 ②高学年も上下巻の分冊にすることで、持ち運びの負担軽減に配慮している。 ③カラーユニバーサルデザインの観点に準じた見やすい配色である。文字は独自の教科書体が使われており、1年生の教科書については、語句や文節の切れめで改行してあるなど見やすさを意識した工夫や、書写の教科書と同じ書家の文字が使われているなどの配慮がされている。	
イ 教科・種目別の観点	①学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	①各領域における学びのポイントを「言葉の力」として、単元の初めに提示している。主体的な学びへと結びつけられるよう単元の投入ページが新設されている。また、学びのためのてびきの冒頭に単元の「問い」が書かれており、言語活動を通して「問い」を解決していくことで学びが深まる。 2年「ことばをひろげよう」5年「日本語と外国語」など、各学年において言葉の学びを振り返る単元が設定されており、言葉の特徴や使い方を意識できるような工夫がある。 学年末に学習内容に関わる話型や文型、言葉などが取り上げられており、学んだ語彙を使えるようにするための工夫がされている。	①各領域において、次のような配慮がされている。「話すこと」では、発表やプレゼン、ミニスピーチなどの言語活動が各学年で扱われている。「書くこと」では、説明文教材の「読み」の後に同じ題材で書く言語活動を設定するなど、「読むこと」と関連付けた工夫がされている。また、高学年においては、図表やグラフを使って、自らの考えを伝えるなどの説得力のある発信の仕方を学んだり、教科横断的な学習につなげたりすることのできる題材が扱われている。「読むこと」では、教科書に書かれているつぶやきの答えを探したり、自ら作る「問い」の答えを探す活動をしたり、「問い」の探究から、対話的な読み深めができるような言語活動が設定されている。
	②語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮はなされているか。	②単元末に「言葉」のコーナーがあり、学習内容に関わる話型や文型、言葉が取り上げてある。「ことばあつめ」のページでは、用語が羅列されているだけでなく、文の中でどのように使っていくかの練習ができるようになっている。また、巻末の付録には「言葉の広場」があり、豊かな語彙を身につけることができる。2年「言葉を広げよう」5年「日本語と外国語」など、各学年において言葉の学びを振り返る単元が設定されており、言葉の特徴や使い方を意識できるような工夫がされている。	②「見つける・見つめる」による語彙集め、言葉の特徴やその由来などを学ぶ「言葉のいずみ」、適切な言葉の使い方を学ぶ「言葉のきまり」など、言葉に対して、興味を持ったり、言葉を正しく使おうとしたりする態度を育成する工夫がされている。また、これらのページを確認しながら、読んだり書いたりするときに活用できるようになっている。
	③読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③年間を通した読書指導ができるよう工夫されている。 扱われている文学作品の作者や、話題の人物などの読書体験文が各学年コラム形式で紹介されており、興味深く読める。夏休み前に読書教材「本は友達」、冬休み前は「〇年生の本だな」が読書教材として設定され、年間を通じて本に触れる機会を設けている。どの学年も「図書館へ行こう」という単元が春に設定されており、系統性を意識して学校や町の図書館に興味関心を持たせるような工夫がされている。学習内容や児童の発達段階に合わせて言語活動の内容と合わせて本が紹介されている。	③各学年の上巻「読書に親しもう」では、物語教材の言語活動例として、クイズ作りやブックトークが紹介されており、活動を通して、進んで読書に向かう態度を養うことができるような工夫がされている。また、下巻の教科書「読書を広げよう」において、制作をともなう読書を行ったり、自身の読書生活を振り返ったりすることを共有する等の活動を通して、読書を意識づける工夫がされている。「読書の部屋」では、表紙写真とともに、発達段階に応じた本が複数冊紹介されており、読書の幅が広げられるようになっている。また、百科事典のひきかたや地域図書館の利用の仕方などのページが発達段階に応じて扱われ、主体的な情報を活用する力の育成ができる配慮がされている。

	発行者の略号	教出	光村
	書名	ひろがることば（言葉） しょうがくこくご（小学国語）	国語
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①子どもの側に立ち教師の側に立つことを念頭に編集することで、学びやすく教えやすい「現場主義」の教科書をめざし、教室での使いやすさを何よりも大切にしている。	①将来を生きる子どもたちが生きて働く言葉の力と心豊かな感性を身に付けられるよう、確かな国語の力を育む「学びの姿が見える」づくり、子どもの「学びたい」を支える教材・題材の精選、「学ぶことの楽しさ、人とつながる喜び」を実感できる手立てを大切にしている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①日常の言語生活から題材を取り上げ、活動を通して言語的な知識についての理解を促し、再び児童自らの言語生活に還元できるように配慮している。 ②各教材に学び合いの場を設定し、対話的な協働学習の中で課題解決を図るようにすることで、深い学びを実現できるよう配慮している。 ③国語科として、言語活動を通して人と交わりながら共に生きていく視点を児童がもち、自ら学び自ら生きる力を培えることを目指している。	①学習指導要領で挙げられている力を系統的に扱い、身につけた力を次の学習で生かしていける配列にしている。国語の学習を出発点にして学び続けられるよう「いかそう」の欄が設けられ、他教科や日常生活に「何が」「どのように」生きるかのヒントが提示されている。 ②子どもたちが自分のこととして考えられる話題・題材を設定している。自分の見方・考え方について見直すことができるように、学習過程の中で様々な人との対話の場を設定している。 ③「今日の学び」が「未来につながる」ように、学びを実感しながら取り組んだり「学んだことが何にいきるか」が見えたりすることができるつくりになっている。 ・単元の終わり「ふりかえろう」を設け、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的な学習に取り組む態度」の3観点で自分の学びを振り返られるようになっている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①プログラミング的思考・生命の尊重・心の発達・食育・郷土や地域を愛する心など、積極的に他教科と関連させよう内容や構成に配慮した教材選定を行っている。	①言葉を味わい言葉から考える力を育てる教材、主体的に人と関わり未来を切り開くための言葉の力を育てる教材など、言葉を通して心を育て人を育てることを目指している。全ての学年に戦争や平和について考える教材を掲載している。
	（ウ）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①見通しと振り返りを学習過程に位置づけることで主体的な学びを促し、各教材に学び合いの場を設定することで対話的な協働学習を行い、課題解決を図る過程で深い学びを実現できるよう配慮されている。 ②表現に関する教材を中心に、各教科での言語活動の指針や内容のおさえなど、他教科での「活用」にも広げることができるよう構成されている。 ③…（イ）教科・種目別の観点①を参照 ④低学年で昔話・中学年で短歌や俳句・高学年で古文や漢文など、伝統的な言語文化教材を児童の発達段階に応じて学べるよう配慮している。また、中学年で季語・高学年で四季の言い回しなど、季節の言葉にふれる配慮がなされている。 ⑤児童の関心・意欲を契機とした多様な言語活動が展開されるよう工夫されている。 ⑥子どもの気づきをイラストから引き出す入門期・小学校の学習内容の着実な習得のための振り返りのステップなど、幼児教育や中学校と円滑に接続されるよう工夫している。 ⑦「共通点や相違点」は低学年・「全体と中心」は中学年・「原因と結果」は高学年というように、必要な情報の取り出しや関係の整理ができるように語彙や文法を取り上げる工夫をしている。また、まなびリンク（QRコード対応コンテンツ）や指導者用デジタル教科書などによる情報活用工夫がされている。 ⑧…（ア）の（エ）③を参照 ⑨「構造と内容の把握→精査・解釈→考えの形成→共有」という4ステップ構造で学習過程を明確化することで、児童が「自ら考え、表現する」学びができるよう配慮されている。	①子ども・教職員に「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何を学んだか」という「学びの姿が見える」よう工夫がある。 ②他教科の学習と関連させた題材を扱うことで、学んだ言葉の力を活用できるようにしている。教科を横断するつながりを明示している。 ③（ア）（ア）①参照。1年生で対話力や語彙力などの言葉の力の基礎を作るため、成長や経験、「知りたい」「やってみよう」などの気持ちにより添った教材を扱っている。 ④低学年での昔話・中学年で俳句や短歌・高学年での古文や漢文、古典芸能（落語・狂言・歌舞伎等）というように発達段階に応じて学べるように配慮している。3年生以上2カ所に「声に出して読もう」を設け、俳句や短歌などにふれて音読や暗唱をする学習の場としている。 ⑤「対話の練習」では、楽しみながら対話スキルを身に付けられるように工夫している。 ⑥入門期には、国語の学習にスムーズに入っていけるよう幼稚園や保育園等で培ってきた言葉の力や経験を生かせる教材を通して、学習に向かう姿勢を育てられるようになっている。6年生の卒業単元に「中学校へつなげよう」を設定し6年間で習得した言葉の力を確認したり、生き方について考えたりすることができるようになっている。 ⑦「情報の扱い方」に関する知識・技能を紹介し、次の単元に関連させ、言語活動の中で力がつくように工夫している。QRコードを採用し、家庭学習を促すような工夫がある。 ⑧特別支援教育・学習のユニバーサルデザインの観点や色覚の多様性への対応から、専門家の指導・校閲を受けている。デジタル教科書とICT機器の活用により、読むことや書くことが苦手な子どもへのサポートが容易になる。 ⑨教科書の初めに「国語の学びを見わたそう」を示し、「何を」「どのように」学ぶかが子どもに分かるようになっている。また、前学年での学びを確認することができるようにしてある。
（イ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①各学年の配当時間・発達段階・教材間の連携をふまえて単元の内容を考慮し、無理のない教材配列を設定している。 ②高学年も上下巻の分冊にすることで、持ち運びの負担軽減に配慮している。 ③文節での改行・交ぜ書きの回避・わかりやすいレイアウトなど、特別支援が必要な学習者へも配慮した編集がなされている。	①概ね適切である。 ②高学年は中学校で使う形式と同じ学年1冊にし使い慣れ中学への環境の変化に適應できるように配慮してある。イラストは全体的に柔らかな色彩が多く文章を生かした想像を広げられる。 ③低学年では「見やすい」太い書体、中学年以上では「読みやすい」細い書体を使用している。低学年は、語のまとまりに配慮した改行となっている。	
（イ） 教科・種目別の観点	①学習指導要領解説に示された言語活動例をもとに各領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）の資質・能力を育成するための題材として工夫や配慮がなされているか。	①ミニディベートやパネルディスカッションなどの「話す・聞く」活動・意見文やパンフレット作りなどの「書く」活動など、多様で活発な言語活動に取り組むことで、日常のさまざまな場面で生きて働く言葉の力を養おうと工夫している。また、話し合いの場面例の中に各言語活動のポイントを表記することで、子どもたちが日常生活や他教科の学習で応用できるよう配慮している。	①見通しを持てるように、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」単元の最初に学習の進め方を例示してある。「話すこと・聞くこと」は「耳を傾ける系統」「話し合う系統」「声を届ける系統」を各学年に配置し日常生活に生きるコミュニケーション能力を伸ばせるようにしている。「読むこと」と「書くこと」の領域を関連させた構成になっており、習得したことを活用する力をつけることができる。「書くこと」は「自分にとって意味がある」と思える題材を扱い、相手・目的を明確にして書く楽しさや読んでもらう喜びを感じながら「書く力」が身につくようにしている。「読むこと」は子どもが問いをもったり自分の読みについて友達と語り合えたりするような教材文を扱っている。
	②語彙を豊かにするための題材として工夫や配慮はなされているか。	②身近なことを表す語句（低学年）・様子や気持ちを表す語句（中学年）・思考に関わる語句（高学年）の3つを、それぞれの学年で重点的に学べるよう工夫している。また、巻末「言葉の木」では語彙拡充のために語句をまとめて示している。	②（ア）（ウ）③参照。2学年以上に、季節ごとの言葉・俳句・短歌を扱ったページがあり、季節感にふれたり語感を育成したりすることができる。また、巻末に「言葉の宝箱」のページがあり、「考えや気持ちを伝える言葉」は日常的な学習活動や日記などで、「国語の学習に用いる言葉」は既習事項の確認するときなどで役立つ。
	③読書活動の充実を図るための題材として工夫や配慮がなされているか。	③学校図書館の計画的な利用を図るための情報活用教材・日常の読書活動を活発に行うための図書紹介を中心とした交流活動を行う読書交流教材という、2系統の読書関連単元を設けている。また、「てびき」で同一作者の別作品の紹介をしたり、巻末の付録としてテーマごとに多様な図書の紹介をしたりしている。	③各学年に「本は友達」の単元を2回設定している。一つは、学校図書館や地域の図書館等を利用して、読みたい本を見つかったり知りたかったりするための方法を身に付けられるようになっている。もう一つは、昔話やノンフィクションなど多様なジャンルの読み物を読書活動と併せて掲載し、楽しみながら読書の世界を広げていけるようにしている。「読むこと」単元末の「この本、読もう」での学習に関連する図書や、巻末「本の世界を広げよう」での物語・科学・知識・詩など様々なジャンルの図書を紹介している。

